

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 6月 1日(日)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会2日目	Aコート	第2試合 11:00~													
<チームA> 八王子 東京 1位		120 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>30</td><td>1Q</td><td>30</td></tr> <tr><td>25</td><td>2Q</td><td>17</td></tr> <tr><td>30</td><td>3Q</td><td>27</td></tr> <tr><td>35</td><td>4Q</td><td>27</td></tr> </table>		30	1Q	30	25	2Q	17	30	3Q	27	35	4Q	27	<チームB> 船橋市立船橋 千葉 1位	
30	1Q	30															
25	2Q	17															
30	3Q	27															
35	4Q	27															

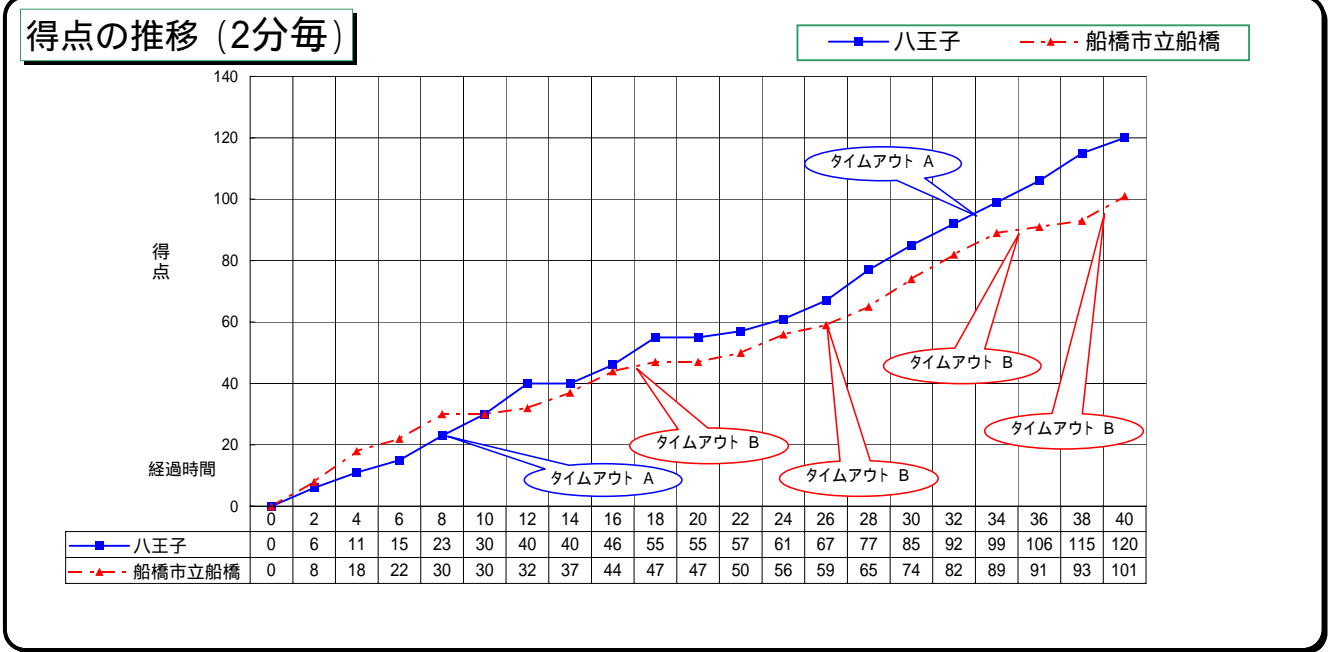
【Aブロック】

主審：渡邊 整(栃木) 副審：稲葉 威(茨城)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	板垣 祐輔	2		1		1
	5	小宮山 怜宇	15	1	5	2	3
	6	千葉 俊一					
	7	エルバシ・ゴルク・ワドゥ	53		22	9	1
	8	中島 一海	18	2	3	6	2
	9	橋本 貴智	23	4	4	3	2
	10	岡部 奨	9	1	3		2
	11	佐藤 弘樹					
	12	本多 祐二					2
	13	東城 皓太					
	14	檜原 慈温					
	15	岩崎 大樹					
	16	五百部 浩志					
	17	高橋 賢					
	18	根岸 敬之					
コーチ		石川 淳一					
合計			120	8	38	20	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	星野 拓海	34	9	3	1	4
	5	和田 保彦	30	6	4	4	4
	6	三富 修平	26		12	2	5
	7	河合 智平					
	8	鍵富 壘					
	9	渡部 大樹					
	10	森山 翔太	5	1		2	
	11	藤岡 昂希	4		2		4
	12	安田 太樹	2		1		1
	13	齋藤 滉太					1
	14	岩崎 翔也					
	15	葛 尚也					
	16	平良 彰大					
	17	山田 侑樹					
	18	出羽 峻一					
コーチ		近藤 義行					
合計			101	16	22	9	

:スターター / :出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数



戦評 記入者： 中山 徹也

八王子の202cmのセンター ワドゥに市立船橋がどう対応するが注目された一戦。

第1P、ディフェンスは八王子がハーフコート2-1-2ゾーンに対し船橋はハーフコートマンツーマン。船橋は、八王子のゾーンに対し早いタイミングで仕掛け 星野 和田の3pが高確率で決まり、リードする。ディフェンスでは八王子の ワドゥがボールを持つと徹底してダブルチームを仕掛け、アウトサイドで勝負させる作戦に出た。しかし、八王子は 橋本 中島が3pをきっちりと決め、船橋にディフェンスの的を絞らせない。3分過ぎに船橋 星野が3pを決め9点リード(18-9)するが、ここから八王子は、ワドゥにボールがつながり始め徐々に得点を上げ差を縮める。船橋 星野の連続3pで再び船橋が差を広げるが、八王子はタイムアウト後、さらに ワドゥにボールを集めて着実に加点。最後は、岡部の3pで追いつき、30-30で第1P終了。

第2Pの立ち上がり、八王子は 橋本の3pを含む8連続得点でリードする。これに対し船橋は 和田 星野の3pが効果的に決まり同点とする。しかし中盤、八王子は 小宮山の1対1や3pで51-44と再びリードする。ここで船橋はタイムアウト。その後ディフェンスをハーフコート2-1-2ゾーンに変えるが、八王子 ワドゥのゴール下シュートなどが決まり流れを変えることができない。八王子55-47船橋で前半終了。

第3P、立ち上がり船橋がディフェンスをマンツーマンに変え、八王子 ワドゥを押さえようと試みるが、身長差を埋めることはできず得点を許してしまう。5分過ぎ、八王子が9点リードしたところで船橋がタイムアウト、ディフェンスをオールコート1-2-2ゾーンプレスに変える。しかし、八王子は落ち着いてボール運び ワドゥのゴール下で効率よく得点を重ねる。船橋も 三富がインサイドで頑張るが追いつき八王子85-74船橋の11点差でピリオドを終了。

第4P、船橋は 星野の3pなどで反撃するが、全員攻撃体制の八王子の得点をとめられない。2分過ぎにディフェンスをオールコートマンツーマンに変え、流れを呼び込もうとするが、ワドゥをどうしても止めることができない。5分過ぎには豪快なダンクシュートも決まり、流れは一気に八王子に向かう。そこから八王子 中島の速攻などで20点差がつき、大勢が決まった。結局、120-101で八王子が快勝した。

八王子は、ワドゥがかりに目がいくが、プレスディフェンスで崩れないガード陣、正確な3pシュート、そして何より、地味だがフリースローの決定率が印象的であった。対する船橋もシュートの正確性は素晴らしいものであったが、ディフェンスで的を絞れなかった点は、敗因の一つに上げられるであろう。